

## ● 中 部

### 水 野 みか子

10月末、名古屋二期会と愛知県文化振興事業団の共催でオペラ《宗春》(麻創けい子台本、中田直宏作曲、矢澤定明指揮、西川右近演出)が初演され、初日にタイトルロールを歌った奥村晃平をはじめヴェテラン歌手陣が実力を発揮した。オペラとしては5月の名古屋演奏家ソサエティによる森彩音《桜幻想》(金丸克己指揮、瀧本晴都子演出)や9月の《ヘンゼルとグレーテル》(時任康文指揮、広島うらん演出)も評判となった。一方、稲葉地オペラ振興会の《愛の妙薬》ハイライト上演(6月)、名古屋オペラプロジェクトによる「フランスオペラへの誘い」での《テレーズ》《サンドリヨン》《マノン》(5月)、エウロ・リリカでの岡本茂朗や伊藤貴之の継続的な活躍、名古屋市芸術創造センター企画公演《カルメン》《タイス》での稲葉薫、相可佐代子、基村昌代らの活躍も話題となった。声楽家グループNOIEM(小林史子、岩間慶子、相可佐代子、太田亮子、近野賢、森雅史)と愛知ロシア音楽研究会の「ロシア民謡万華鏡2015」、および、リサイタルでは山本真由美、金原聡子、荻野砂和子、松下伸也、佐地多美、木村洋子、原田幸子、村島増美らが注目された。

愛知県文化選奨新人賞受賞の神野すなほをはじめ、伊藤仁美、加藤美緒子、中岡祐子、仲道郁代、石川馨栄子、山本多恵佳、織田寛子、都築三佳、寺本みなみ、桐山尚子、上田麻里江、大久保理紗、丹羽悦子らのピアノ・リサイタル、竹澤恭子や澤田幸江らのヴァイオリン・リサイタル、村田四郎、片岡博、丹下さと子、大海隆宏&輝子らのフルート・リサイタル、そして、アンサンブル活動として、ピアノの桑野郁子がリードする「ブラームスの森」、日本室内楽アカデミー「30th ベストセレクションコンサート」、工藤重典、中沖玲子 パリからの贈りもの in あつた」、名フィルヴィオラ奏者による「ヴィオラシク」などが話題になった。日演連新進演奏家育成プロジェクト・リサイタル・シリーズNAGOYAとして、ピアノの桐山尚子、ヴァイオリンの古田央音が登場した。

オルガンの吉田文は11月のリサイタルのほか、愛知県芸術劇場でのランチコンサートや五反城協会で「そして地には平和を」シリーズなどを展開。豊田市コンサートホールでは専属オルガニストの徳岡めぐみがリサイタルのほか愛知工業大学鳥居研究室プロジェクト・マッピングとのコラボを実施した。

コンテンツ音楽に関して、系譜やルーツといった視点も持たせた企画が作曲家たちによって精力的に企画された。平田聖子は5月、曲集《本願に あいぬれば》出版10周年として《親鸞》を上演し、愛知県芸術劇場コンサートホールを満席にした。音楽クラコ座は6月、ベネト・カサブランカスやジョセブ・マリア・ギッシュなどを取り上げ、作曲家と演奏家の鋭いアイデアを交差させた。作曲家三人と演奏家三人によるMiAは、8月8日丸八の日(名古屋の日)に「We Love Nagoya」と題した戦後70年平和記念コンサートで国分隼人、平田聖子、水野みか子の新作を発表。11回目を迎えたニンフェ・アールの6月公演ではソプラノの森川栄子とギターの佐藤紀雄が演奏。9月には、岐阜で三日間の大規模な「サラマンカ電子音響音楽祭」が開催され、三人のオルガニスト(今村初子、石丸由佳、

室住素子)とのコラボによって、パイプオルガンと電子音響のための新作6曲が披露された。

名古屋フィルハーモニー交響楽団はひとまずマーティン・ブラビンスの最後の年となった。ブラビンス指揮で《ワルキューレ》第一幕を取り上げバスの小鉄和広が冴えた1月定期、藤倉大の《フルート協奏曲》を初演しホルストの《惑星》で圧倒的な力の音楽を聞かせた12月定期、川瀬賢太郎指揮で権代敦彦の《子守歌》を取り上げた5月定期、小泉和裕指揮で端正なベートーヴェンを聞かせた9月定期など力演が続いた。セントラル愛知交響楽団はレオシュ・スワロフスキーとの精錬を实らせ、7月定期で島田真千子独奏でのブラームスの協奏曲と交響曲第4番を好演、11月定期ではドヴォルザーク集《弦楽セレナード》《管楽セレナード》《チェコ組曲》がひととき充実度の高い演奏となった。また、5月定期では齋藤一郎と、8月定期では高橋直史とギターの谷部昌央と共演。中部フィルハーモニーは2月に広上淳一と初共演。5月には創立15周年でアーティスティック・ディレクター秋山和慶とマラーの《復活》を成功させた。愛知室内オーケストラは新田ユリを常任指揮者として迎え、カール・ニルセンやニルス・ゲーゼを積極的に演奏。2014年発足の名古屋室内管弦楽団は田中祐子、ガブリエル・ドロサルらと定演を実施した。名古屋市文化振興事業団によって3月に開催された「オーケストラの祭典〜絆・希望のハーモニー〜」では、活躍目覚ましい若手指揮者角田鋼亮と田中祐子の指揮で、名フィル、セントラル愛知、中部フィル、愛知芸大、名古屋音大、名古屋芸大のオーケストラが二日間の演奏会を実現した。広上淳一と京響は清水和音との共演で7月に第6回名古屋公演を実現。鈴木雅明とバツハ・コレギウム・ジャパンは9月に第5回名古屋定演を行い、東海地区でのバロック音楽ファンを沸かせた。

愛知芸術文化センターの企画として、サウンドパフォーマンス・プラットフォーム、中川賢一によるリュック・フェラーリ作品のレクチャー・コンサート、名称変更して新しく生まれ変わった「愛知県芸術劇場合唱団」とオルガン(勝山雅世)が共演した「クリスマスはオルガンだ! 2015」が好評を得た。

静岡音楽館AOIでは、結成20年のレジデンス・カルテットが野平一郎の弦楽四重奏曲第5番を初演したほか、野平の指揮・チェンパロによるブランデンブルグ協奏曲全曲演奏会、語りと箏歌、謡・舞と聲明による「良寛よせて、今」、間宮芳生のオペラ《ボボイ》、福田進一と鈴木大介らによるギター・カルテット、モスクワ民族楽器四重奏団、望月哲也テノールリサイタルなどユニークな企画が繰り広げられた。豊田市コンサートホールの狂言風オペラ《ゴジ・ファン・トゥッテ》はドイツ・カンマーフィルハーモニー・プレーメン管楽ゾリステンとの共演で話題を呼んだ。5/Rホール会館5周年記念シリーズでは、ソプラノの幸田浩子、ピアノの伊藤仁美、ギターの酒井康雄、作曲のなかむらたかしが夫々コンサートを実施。

第38回名古屋国際音楽祭には小山実稚恵、チョン・キョンファ、ザルツブルグ・モーツァルテウム管弦楽団、ドレスデン・フィル、ロシア・ナショナル管弦楽団、ハンガリー国立歌劇場等が、第33回名古屋クラシックフェスティバルにはブルガリア国立歌劇場、ギドン・クレメルとクレメラータ・バルティカ、ヨーヨー・マ、チェコ・フィル、マリア・ジョアン・ピリス&アントニオ・メネセス、ユジャ・ワンとヒメノ指揮のロイヤル・コンサートヘボウ、ユンディ・リ、ゲルハルト・オピッツらが登場。過去の名古屋音楽ベンクラブ賞受賞者によるコンサート「音環IV」にはピアノの桑野郁子、戸谷誠子、エウロ・リリカが出演して地域の音楽界を活性化させた。